

令和3年度予算三案 反対討論原稿 (参議院予算委員会)

立憲民主党 石川 大我

私は、立憲民主・社民を代表して、ただいま議題となりました令和3年度一般会計予算、令和3年度特別会計予算、令和3年度政府関係機関予算につきまして、反対の立場から討論いたします。

安倍前首相は「福島はアンダーコントロール」と言って東京オリンピック・パラリンピックを招致しました。しかし、福島原発の汚染水は今も止まらず、政府と東電は海に放出したいと言っています。多くの避難民は未だに故郷に帰れる状況ではありません。五輪責任者も次々引責辞任。果たしてこれが復興した日本の姿なのでしょうか。

総務省を巡る接待疑惑で失われたのは、総務省の信頼だけではありません。菅総理の看板政策である携帯料金値下げや菅総理のご子息が勤める会社へのチャンネル利権のために、国民共通の財産である通信市場の「自由と公正」が奪われました。日本という国の信頼も大きく傷付きました。

同性婚の問題です。政府は、同性婚を求める人たちの切実な声に耳をかたむけません。私たちは2019年に婚姻平等法案を既に提出しています。札幌地裁での違憲判決を受け、すみやかに法の下での平等に適う制度を整え

るべきです。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう今日、最優先すべきは、何よりもコロナ対策です。ところが、感染拡大から1年も経過しているのに、国は満足な検査体制や医療体制を整えず、ワクチン接種も進まず、経済的に困っている人々を救おうともしません。

財務省の説明資料「令和3年度予算案のポイント」で、新型コロナウイルス感染拡大防止のための予算として明示されているのは、新型コロナウイルス感染症対策予備費5兆円を除けば、感染症対策のための診療報酬の臨時的措置や、医療機器の国内生産能力の増強、感染症危機管理体制・保健所体制の整備など、わずかな項目でしかなく、それらの予算額すべてを足しても、一般会計予算 歳出の約107兆に占める割合はごくわずかです。

一方で、コロナ対策とは関係の薄い、従来型の歳出は、本予算案においても改められることなく、野放図のまま膨張を続けています。

とりわけ防衛関係予算については、5兆3422億円と、7年連続で過去最大を更新しました。断念したはずの陸上型イージス・アショアを護衛艦搭載に切り替えるなど膨大な無駄と矛盾が生じています。

公共事業費についても、今回約 6.1 兆円が計上されています。令和 2 年度当初予算との増減は 0%と政府は説明しますが、既に令和 2 年度 3 次補正予算案において、国土強靱化の名目で 2 兆円が計上されています。この公共事業費の膨張は極めて問題です。

以上の通り、この令和 3 年度予算案は、新型コロナウイルス対策という今最も必要とされている予算が極めて手薄である一方、本来不要不急でカットすべき従来型の予算が膨張している、極めていびつで一人ひとりの国民に寄り添っていないものです。

このような予算案を、私たちは決して容認することはできません。断固反対の意を申し述べ、私の討論といたします。